

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	障害者の日常生活支援事業	会計	一般会計	事業No.	97	施策順No.	34-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-3-22-2		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進	事業期間	開始	S44	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 自宅に自家用車がない、運転できないなど外出の手段の少ない障害者 2 障害があるため、自宅の浴室やトイレ、台所などが使いにくいと感じている障害者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		在宅の重度障害児者数(人)		2410	2410	2410	2410		
		住宅改修を希望する障害者数(人)		1	1	2	4		
意図		1 タクシー利用券を利用して外出し、社会参加の機会を増やす 2 在宅での、日常生活の不便を解消する							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		助成を受けた人数/在宅の重度障害児者数 (%)	69.4	67.9	57.8	60	60.4	60	A
		住宅改良事業を利用した障害者数/住宅改修を希望する障害者数 (%)	100	100	100	100	100	100	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	各種支援制度の利用率からみる数値目標は達成しているが、助成を受けた在宅の重度障害児者の利用率が約8ポイント減少した主な要因はタクシー利用券の給付者数が支給要件等により61人減となったことによる。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 障害者タクシー利用料金助成事業(飯伊圏域で利用したタクシーの乗車料金の一部を助成(年間500円券を35枚給付)) 2 重度心身障害児通所通園費等助成事業(県内の障害児施設に通所入所または医療機関に入院している児童の介護者等に有料道路通行料金の一部を助成) 3 人工透析患者等通院交通費助成事業(患者について通院交通費の助成を行う。助成費=片道距離km×11.4円×通院回数) 4 障害者にやさしい住宅改良事業(浴室、トイレ等を障害者が使いやすいように改修する事業補助。(補助限度額 90万円)) 5 障害者余暇活動支援事業(障害者の余暇活動等を実施する社会福祉法人等に補助金を交付)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 飯田市障害者タクシー利用券の給付	1 給付実人数	1 1,332人
	2 重度心身障害児通所通園費等助成	2 給付実人数	2 38人
23年度実施計画	3 人工透析患者等通院交通助成	3 給付実人数	3 86人
	4 障害者のための、自宅改修の相談と補助金の交付	4 給付実人数	4 2人
	5 障害者余暇活動支援事業	5 余暇活動を実施した法人数	5 4法人
	(1)障害者のレクリエーションや趣味の活動を実施する社会福祉法人等に補助金を交付		
	(2)「希望の旅」事業助成		
	1 飯田市障害者タクシー利用券の給付	1 給付実人数	1 1,550人
	2 重度心身障害児通所通園費等助成	2 給付実人数	2 50人
	3 人工透析患者等通院交通助成	3 給付実人数	3 100人
	4 障害者のための、自宅改修の相談と補助金の交付	4 給付実人数	4 2人
	5 障害者余暇活動支援事業	5 余暇活動を実施した法人数	5 2法人
	(1)障害者のレクリエーションや趣味の活動を実施する社会福祉法人等に補助金を交付		

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(県)地域福祉総合助成金(1/2)1,113千円
		県支出金	1,290	1,113	1,040		
		起債					
		その他					
		一般財源		23,481	19,575		
	計(A)		24,771	20,688	24,051		
	正規職員所要時間			1,500			
	臨時職員等所要時間			1,000			
	人件費計(B)			6,439			
	トータルコスト A+B			27,127			

4 事業に対する市民や議会の意見

障害者タクシー利用券を利用して、気軽に外出できるようになった。 タクシー券1枚500円について、タクシー料金の値上がりにより見直してほしいとの声もある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標	安心して地域で日常生活が送られる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	家に閉じこもりがちな障害者の外出による社会参加が進んだ。	
	後期に向けた課題	さらなる社会参加をすすめるために、利用人数の拡大に努める必要がある。	
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	3月からの受付開始、即日交付等、利用者の利便性に努めた。	
	後期に向けた課題	制度の広報等、さらなるPRが必要。	
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	特になし。	
	後期に向けた課題	特になし。	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	障害者の社会参加のための施策は市としても重要な施策と位置付けている。全額負担ではなく助成という一部負担の形である。	
	後期に向けた課題	社会参加の手段として、他の制度と重複する場合には、制度のあり方の再考が必要。	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①②障害者の社会参加のための施策は市としても重要な施策と位置付けている。利用促進のために3月からの受付開始、即日交付等、利用者の利便性に努めた。	
	後期に向けた課題	①②引き続き利用促進のためのPR等が必要。	
全体を通じて	4年間の振り返り	障害者の社会参加のための施策は市としても重要な施策と位置付けているなかで、当施策については市民の関心も高く利用率も高い。	
	後期に向けた課題	社会参加を進めるための他の施策(移動支援等)もあることから、施策の優先度等の検討が必要。	

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------